


平成 21 年 6 月 5 日

浜田市議会議長 牛尾 昭 様

議員名 大谷 弘幸 

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。





記

1. 期 間 平成 21 年 5 月 18 日 ~ 5 月 20 日。

2. 視察又は訪問先

安芸高田市・松山市・高松市

3. 参加議員氏名

湯浅 勝義 	印
向 淳雄 	印
松 三 	印
大谷 弘幸 	印
	印

4. 調査経費 95,414 円 (一人当たり 23,853 円)

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



報告

1、安芸高田市

調査事項 (1)住民自治組織によるまちづくり

◎概要

*平成16年3月1日に高田郡6町が合併し「安芸高田市」が誕生。人口減が続き少子高齢化等により、相互扶助機能の低下による従来の集落単位での対応が出来かねる状況になり、住民と行政の協働によるまちづくりを積極的に推進する事が重要であり、合併協議でそのことが協議され、住民自治組織を設立し、対話をベースにしたまちづくりを推進。

○住民自治組織

- ①市内全域に32の地域振興組織と旧町単位に6つの連合組織を確立。
- ②組織の区割りは基本的に住民協議で決定した住民組織である。
- ③住民自治活動は「やらされる、おしつけられる」と言った義務的ではない。
- ④支援のとりくみ(平成21年度)
 - ・財政的支援——活動支援助成 1,800万円/6連合組織
事業支援助成 2,400万円/6連合組織
 - ・人的支援——自分の地域に帰って一人の住民としての活動を、そのための職員研修を毎年実施。
- ⑤本庁には「まちづくり支援センター」、各市所には「総合窓口課」を設置。
- ⑥まちづくり委員会の設置
平成17年4月1日に条例を制定、委員数は30名で21年度より小委員会を3ブロックに分けて設置。

◎まとめ

人口減とともに少子高齢化の進展とともに、財政力弱体化の進行の危機意識のもとに、合併後のまちづくりにはなによりも住民自治が重要との認識で、その機能の確立に向けて積極的に取り組みを推進されている熱意を感じた。32の地域振興組織の活動は、それぞれに設立年月日が異なっている訳であるが、それぞれに主体性・独自性を有して活動しておられ、対話の場の確保も支所別懇談会・自治懇談会・団体懇談会を実施する等行政と住民の協働を常に視点に据えておられることが強く印象として残るとともに、平成16年3月合併から毎年行政が住民とともに「住民組織によるまちづくり」について検証をくり返し、めざすべき将来像に向けて創意工夫を繰り返しつつ、体制づくりを含めた環境整備に努めておられる姿勢に感動するとともに、危機意識の認識にもとづく、やる気と行動力の必要性・重要性を強く感じた。

②、松山市

調査事項 (1)急患医療センターの運営

(2)太陽光発電システムの補助制度

(1)急患医療センターの運営について

◎概要

*地域医療をとりまく環境への対応については、全国的にも共通した課題として取り組まれているが、松山市におかれては、急患医療センター運営の改善について、従前よりその問題点・課題を把握しての取り組みを推進してこられ、特に平成17年1月合併以降その改善に努めてこられた。

- ①愛媛県内救急医療の体制を6地区に区分され、松山圏は3市3町で構成。
- ②平成17年12月に「松山市急患医療センター将来構想検討委員会」を設置して運営の確保について協議。[注・現在は休止]

※委員会の結論(平成18年10月)

- ①準夜帯出務：開業医。深夜帯出務：勤務医
- ②日曜準夜帯の空白を埋めることが望ましい。
- ③①・②の勤務体制への移行はH19年度中の可能な時期からの開始を目指す。

- ③急患医療センター運営協議会にて上記結論を正式了承(平成19年8月)

◎まとめ

年間365日、24時間の医療体制について、平成16年6月の松山市急患医療センターの開設以降計画的に改善が図られており、適正受診に向けての啓発活動についてのガイドブックの作成配布や出前講座取り組み等で成果を得ておられる様子が伺えた。年次毎の継続性を持った取り組みを計画的に実施することが重要であるとともに、各機関や団体・組織の相互信頼と前向きな姿勢が大切であるとの印象を強く受けると共に、医療機関の正しい利用についての地域住民に対する啓発活動について、行政としての役割の必要性を強く感じた。

(2)太陽光発電システムの補助制度について

◎概要

*「太陽エネルギーを地域の活力に、松山のエネルギーに」を共通の合言葉に、地域特性を活かしての太陽エネルギーを新エネルギーとして活用・普及することにより、地球温暖化の防止及び環境保全に取り組むとして事業

を推進し、その利活用を積極的に図っておられる。

- ①降水量が少なく温暖な気象条件を逆手にとった取り組みで、本年1月からの国の補助復活を受けて、21年度に補助金交付枠拡大の要綱改正を実施。
- ②「松山サンシャインプロジェクト」を立ち上げ、その取り組みによる「脱温暖化」・「産業創出」の推進を目指している。
- ③「グリーン電力証書」の発行による企業・団体の地球温暖化防止など環境対策に貢献していると対外的にPRできる取り組みの推進。
- ④サンシャインプロジェクトのイベントとして、全国初の第1回ソーラーラジコンカー耐久レースを8月に開催計画。
- ⑤太陽光・太陽熱システムを設置することにより、温暖化防止の環境づくりに貢献していると言った意識啓発につながる。

◎まとめ

松山市が取り組まれている20年度までの太陽光発電・太陽熱利活用についてはその補助金額に相応して件数も推移しており、21年度当初予算では約八千万円をを計上し更なる普及拡大に向け「松山サンシャインプロジェクト」を立ち上げ、そのプロジェクトを核として「脱温暖化」「産業創出」を図るとともに目標数値を定めての施策を推進するとして、「グリーン電力証書」を松山市が発行者となりその販売収益を導入支援に充て更なる普及拡大を図ろうとする取り組み。さらに行政の対応担当部署は、環境面に留まらず産業創出等地域経済への効果期待から担当課を環境部環境事業推進課と産業経済部地域経済課が担い、広い視点での成果に向けたプロジェクトに感動するとともに、環境の世紀と言われている今、浜田市においてもこのような視点でのまちづくりの重要性・必要性を強く感じた。

3、高松市

調査事項 (1)小中学校統合計画(小中一貫校)

(2) J R 高松駅前広場等の整備状況

(1)小中学校統合計画(小中一貫校)について

◎概要

*高松市教育委員会では、小中学校適正配置等審議会の「高松市中心部小中学校の適正配置等について」の答申を16年8月に受け、中心部小中学校5校による小中一貫教育を19年度から実施。高松第1学園としての新築校舎完成は22年秋であり、今年度から順次整備が進められる予定で、施設分離・小中連携校型から施設一体・施設一貫校型に移行の計画で進められている。

- ①義務教育9年間を3・4・2年間として、9年間を見通した学習指導。
- ②小中子ども達の継続的交流の促進と教師の多面的で総合的指導。
- ③5、6学年の一部に教科担当制の実施。
- ④第1学年から英語科を週1時間実施
- ⑤高松みらい科(環境教育・キャリア教育の新設教科)の実施。

◎まとめ

高松第1学園をモデルとしての施設一体の一貫教育の取り組みであって、他地域における一貫教育推進が今後の課題であると感じた。一貫教育の基本方針については、以前調査に伺った呉市と大きな違いはないと感じられた。職員室は1つで考えており、校長一人、副校長一人、教頭二人の体制を想定しているとの説明を受けた。建設基本設計に公募型プロポーザル審査委員会を設置し、5人の委員で5回審査委員会を開催し設計者を決定されていた。廃校跡地の利活用については基本計画を策定して取り組みを進めている。一貫教育の取り組みについては、浜田市においても可能で出来るスタイルでの積極的取り組みが求められていると思われ、高松市でも実施されておりましたが、一貫教育に対する広報活動も先行した取り組みが重要と思います。

(2) J R 高松駅前広場等の整備状況について

◎概要

*広大な敷地に空間スペースを有効的に確保し整備された駅前広場に感心させられた。J R 高松駅が終着駅で構内はすべて平面であった。現地視察のみの調査であり、実地をしっかりと確認することができた。

- ① 駅利用者は一日二万五千人との説明であったが、駅舎内、ホームも広々としており、掲示物も必要最小限に整理されていた
- ② 駅前広場の池は海水池で、海に面した特性を活かした造りで海水魚がいた。
- ③ 花時計の維持管理は、地域のボランティアがされていた。

◎まとめ

海を埋め立てた広大な土地に、空間を十分に確保しての施設整備で、その施設間の移動も楽につくられており、周囲の展望にも配慮した移動スペースの造りにも感心した。まだまだ空き地も広くあり、国の機関の合同ビル建設計画もあると聞きましたが、その空き地もきれいに管理されており、さらに新しさだけでなく古い町並みにも気配りがなされており、全体的に調和がとれていて好感が持てて、学ぶ点が多かった。

今回私達平成クラブは、安芸高田市・松山市・高松市の3市に会派視察で調査に伺いましたが、どこも快く受け入れて頂き親切丁寧な御指導を頂いた事に感謝申し上げます、資料を添付して報告とします。

終わりに、安芸高田市で昼食場所として紹介頂いた「神楽門前湯治村」は神楽ドームを中心にした手作りの素朴な素晴らしい雰囲気であったことを申し添えておきます。